

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
---------	--------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 福岡 直	電話番号	0852-22-5910
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	ふるさとティーチャー派遣事業		
目的	(1) 対象	児童・生徒	
	(2) 意図	児童・生徒の「豊かな心」を育むとともに、地域との連携により次代の文化活動の担い手を育成する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な指導者がいない市町村立中学校・高校及び県立学校の文化部活動に対し、自立的な活動及び技術・表現力の向上を図るため、地域の社会人指導者（ふるさとティーチャー）を派遣する。</li> <li>・中学校文化部活動の活性化と地域社会との連携協力を推進するため、中学校文化部による地域貢献活動や異世代間交流活動に係る活動費を支援する。</li> </ul>		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 全国高等学校総合文化祭への参加部門数	目標値		16.0	16.0	16.0	16.0	部門
		取組目標値						
	式・定義 参加部門数	実績値	15.0					
		達成率	—	—	—	—	—	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	—	—	—	—	—	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	10,639	11,580
うち一般財源 (千円)	10,639	11,580

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校、高等学校の文化部活動において、学校内で専門的な指導者がいないため、地域の社会人指導者（ふるさとティーチャー）への派遣要望が高い。指導者（ふるさとティーチャー）の派遣 【H26年度】 中学校：24校・25部活動（延べ25人）、県立学校：34校・71部活動（延べ75人） 【H27年度】 中学校：23校・24部活動（延べ24人）、県立学校：37校・74部活動（延べ91人）</li> <li>・中学校文化部の地域交流活動への取り組みが少しずつ広がってきている。地域と中学校の文化部活動支援 【H26年度】 実施校：18校（9市町） 【H27年度】 実施校：16校（10市町）</li> </ul>
--

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・H27年度は派遣予算の増額により、申請のあった全ての部活動に要望どおり派遣経費を支援することができ、文化部生徒・指導者の確保、部活動の維持、活動水準の向上が図られた。</li> <li>・中学校文化部の地域交流活動に対する活動費の助成により、生徒の地域参画を促し、家庭や地域における文化部活動への理解を深めることができた。</li> </ul>
--

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な指導者の不在、不足により、生徒への実技指導が困難な学校が多い。</li> <li>・郷土芸能、伝統文化関連部においては、派遣指導なしには部の存続自体が難しくなっている。</li> <li>・教員の少ない中山間、小規模校においては、文化部活動の選択肢が少ない。</li> <li>・文化活動は多様で幅が広く、様々な活動が行われている。</li> </ul>
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の多忙化や少子化等の学校を取り巻く環境の変化に伴い、文化部活動の専門性を持った顧問教員が減少している。</li> <li>・音楽、書道、美術等については、非常勤講師の配置が多い。</li> </ul>
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な実技指導力を備えた地域の社会人指導者の派遣が継続して求められている。</li> <li>・郷土芸能、伝統文化関連部の存続と若い世代への技能継承を図る必要がある。</li> <li>・中山間、小規模校にあってもなるべく格差なく、一定の文化活動を行う機会が得られるように配慮する必要がある。</li> </ul>

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣事業に対する要望が高いため、今後も地域の社会人指導者の派遣・活用を継続実施し、文化部活動の維持・活性化と技術力・表現力の向上を図る。</li> <li>・地域と中学校との連携は発展途上であり、さらなる活性化のために継続した取り組みを行う。</li> </ul>
--

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）

--